

がんばれ 商店街!!

商店街の今とこれから

リポーター

渡部 英 幸さん(清水町)



去る10月の下旬、大館商工会議所は「大館市内商店街通行量調査」を行いました。私もこの調査に参加し、商店街活性化について色々と感じました。

これがきっかけとなり、現在の商店街の実態やこれからの展開などについて調査したいと思い、大館商工会議所を訪ねました。

市民
リポーター
だより No.4

通行量調査とは

大館市内の商店街の人通りはどこが一番多いかを調べて、今後の街づくりの参考にすることを目的とした調査です。そしてこの結果は、商売上の戦略資料やこれからの商売をするかたの参考資料になります。この調査は昭和48年から毎年実施されており、平日(金曜日)と休日(日曜日)に分けて行われます。商工会議所からいただいた資料は昭和63年～平成14年までの15年分、どの年も10月に13カ所17地点で、歩行者及び車両を

対象に調査しています。

通行量 調査の 結果

今年度は平日・休日ともに「御成町3丁目・ほかほか弁当前」がトップ。平日では2年連続、休日では5年連続となりました。

これに対してワーストとな

ったのは「御成町1丁目・弘南観

光前」でした。大館の玄関口であるJR大館駅の通行量が少ないという結果は、現代は車社会とはいえ、大館に来るかたが少ないということが推察されます。この点に関しては、商工会議所のかたも大館市全体の問題ではないかと気にしていました。

そのほか特に落ち込みが大きかったのは「馬喰町・二葉呉服店前」で、平日では平成12年は1,944人、13年は804人でした。今年は878人で、やや増えましたが大きな落ち込みです。休日も、対前年では512人も減って433人でした。末広

町・大町会館前」「長倉町・昭文堂前」「片町・元ミシェル前」は、平日・休日ともに昨年を上回りました。さらに、過去と比較してみると、まず通行量そのもの(すべての地点での通行量の合計)が減少傾向にあることが分かりました。昭和63年と今年を比べると、昭和63年の平日の合計は3万9,264人で今年の合計は1万4,520人でした。また、休日でも63年の3万3,660人に対し今年では9千790人でした。合計が1万人を切ったのは今年が初めてのことです。

現代が車社会であることや人口減少などが最大の理由だと思えますが、商工会議所のかたは周辺都市に買い物に行くのも大きな理由の一つだとおっしゃっていました。若い世代では特にその傾向が高いと思われます。ほかに、通行の中心地が「大町周辺」から「御成町周辺」に移ってきていることが分かりました。今年のトップだった「御成町3丁目・ほかほか弁当前」も、ほかの地点同様減少はしているのですが、大町周辺とはそのスピードに差があります。これは、しにせ百貨店の倒産が大きく影響しているようです。

空き店舗実態調査から

商工会議所は、長びく景気低迷の

中で空き店舗の実態を把握し、今後の商業振興対策の指針とするために「商店街空き店舗実態調査」を行っています。これは平成11年の調査ですが、現在とほぼ変わらないそうです。場所は大館の中心市街地15地区で、合計66店の店が退店しており、この多さに驚き現実の厳しさを強く感じました。中でも大町は各地区のトップとなる15店と、通行量調査とも比例する結果でした。

こういった結果の裏には「商店街としての顧客吸引力、魅力のなさ」「駐車場の不足」「経営者層の高齢化」「周辺都市等への顧客の流出増」など様々な問題があるということでした。しかし御成町南地区は、通行量調査ではトップの成績にもかかわらず8店の退店。これも驚きだったのですが、調べていくと空き店舗の多い地区は店数自体が多くあって、少ない地区ではそれが少ないということが分かりました。退店数が多いからといって元気がないとは一概には言えません。

大館TMO構想

これまではマイナスのことばかりでしたが、商工会議所は商店街の復活となるかもしれない大きな事業を考えています。知っているかたも多いかもしませんが、それが「大館